

令和元年度 在宅リハビリテーション従事者研修会 ～通所介護編～が開催されました。

令和元年12月14日～15日に、田町カンファレンスルーム（東京）のメイン会場と岩手、名古屋、兵庫、福岡のサテライト会場をWEBで繋いで、PT・OT・ST三協会と訪問リハ振興財団で初めて“通所系”の研修会を開催し、当日は68名（PT39名、OT26名、ST3名）の方にご参加いただきました。

現在、少子高齢社会対策として、地域包括ケアシステムの構築、ならびに「我が事・丸ごと」地域共生社会の実現に向けて社会保障制度が見直されています。在宅リハビリテーションにおいては、高齢であっても、認知機能の低下があっても、障害があっても、病気療養をしても、心身機能の回復だけでなく、その人の持っている強みを活かして役割や社会参加活動につなげる暮らし作りが求められています。また、現在の介護保険制度において、機能訓練指導員として、位置付けられている職種は複数あります。一方、その期待される役割は、自立支援、重度化防止であり、リハビリテーション専門職の果たすべき役割は、極めて重要であります。そこで、今回、リハビリテーション専門職が、機能訓練指導員としても専門的に実行すべき機能や役割について研鑽する、通所介護における運営の基礎から、実務の具体的な進め方、これからの療法士の役割に関してトータルに学び今後の介護報酬改定等にも柔軟に適応できる療法士の育成を目的として研修会を開催しました。

講義では、リハ専門職より、『療法士が配置された通所介護における課題整理』・『通所介護事業所の実践と運営のポイント』・『通所介護における活動・参加につなげるストレングスアプローチ』・『機能訓練指導員の役割と個別機能訓練加算の取り方』・『通所介護における今後の事業運営の在り方と療法士の役割』・『通所介護での多職種チームケアの在り方』といった、運営からより実践におけるリハビリテーションの方法についてご講義頂き、試行錯誤の事業所運営の中で生まれるビックリ話やこれまでの道のりも聴く事も出来ました。

関連職種からは看護師より『通所介護に必要なフィジカルアセスメントスキル』・社会福祉士より『通所介護における社会参加活動の組み立て方』についてご講義頂き、ご利用中の急変時の対応の必要性、通所介護からどのように地域活動や生活の幅を広げるアプローチの大切さを学ぶことが出来ました。

また、ワークショップ形式の講義もあり、受講生同士でのディスカッションにより深めた具体的事例やアイデアを自分のものとして持ち帰り、自らの事業所の活動に落とし込めるよう楽しく真剣に学ばれておりました。

懇親会も開催され全国から集まった志の高いセラピストの仲間の輪・ネットワークが出来ていました。受講生からは「気軽に相談できる同期の仲間が作れて、この先また頑張れそう」というような嬉しいコメントも聴かれました。

一般財団法人 訪問リハビリテーション振興財団
研修班 阿部 学

～南から始まる『訪問リハビリテーションの魅力紹介』～ 東京都編

現在、非常勤で訪問看護ステーションに所属しております。利用者の方の希望は多岐に渡ります。多岐に渡る希望が「人生」に根ざしているという点が訪問リハの魅力だと思います。作業療法士として、これまでの人生に耳を傾け、諦めかけていたことを実現できた時の笑顔は印象的です。それと同時に命には限りがあるということを忘れてはいけません。何も希望がないと話していた利用者様がある日行きつけだった居酒屋に顔を出したいと語り始めました。その頃からは表情が明るくなり、1人でお店にも行くことが出来ました。ご家族に挨拶に伺うと、「最近はお父らしい顔になっていて良い最期でしたよ」と皆さんが笑顔で話してくださいました。人生に寄り添っているということを強く実感するとともに、命について改めて考えさせられた経験でした。

東京都訪問リハ・地域リーダー 作業療法士
東京都作業療法士会 中本 久之

リハビリテーション専門職団体協議会・訪問リハビリテーション振興委員会
事務局 東京都港区芝浦3-5-39 田町イーストウィング6F